

共同礼拝

2023年1月15日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 イザヤ書 43章 18～19a 節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 42章 1～4 節 (旧 1128)

マタイによる福音書

12章 9～21 節 (新 21)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 162 (1)

青年祝福の祈り

説 教 「争わず、叫ばず」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 164 (1)

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

1月の祈り

新たな年を迎え、主にあって日々新たにされて生きる恵みを感じることができるように。

新たな思いをもって信仰に歩み出し、祈りの時が増し加えられるように。

戦火が止み、平和がもたらされるように。痛みを負っている人々に慰めといたわりが与えられるように。

教会の新たな世代が御言葉によって育まれるように。

今日の祈り

主に目を上げ、主を讃え、主の導きによって礼拝が守られるように。

青年たちの日々が主の祝福を受けて、喜びの時も困難な時も、御心を求め、御言葉の光の導きが与えられるように。

この世界が主の御心に導かれ、憎しみを乗り越え平和を求めものとなるように。

寒さ厳しい中であって、高齢者、弱っている人々が守られ、力づけられるように。

愛する者を御許に委ねた人々に、慰め主なる聖霊のいたわりと慰めがあるように。

「争わず、叫ばず」 高橋和人

マタイによる福音書 12:9～21

安息日の会堂での出来事である。安息日の会堂での礼拝は、その町と人々の生活の中心であった。

麦畑の事件とは違い、ほとんどの人が集まり、ここで起きたことはすぐに町に広まり、まさに公のものであった。主イエスは、会堂に入った。会堂はエルサレム神殿を簡素にしたものであったが、聖書に

よる礼拝が行われた。そこには、片手の萎えた男がいた。彼は入り口近くにいた。病気のもの、障害を負ったものは神に仕えるのがふさわしくないとされていた。障害を負っただけでなく、神からも遠ざけられる。21:17 アロンに告げなさい。あなたの子孫のうちで、障害のある者は、代々にわたって、神に食物をささげる務めをしてはならない。

人々は主イエスが癒されることを予想していた。あえて「安息日に病気を治すことは律法に赦されているか」を問う。主は一匹の羊の所有者が安息日に穴に落ちたときに手で引き上げてやらないかと問い返す。そしてその人に手を伸ばすように言い、彼は自分で手を伸ばした。主は言葉によって癒された。それこそ安息日にふさわしい善いことであった。

それが、主が命を狙われる原因となった。彼は回復し、神の前にもり戻された。しかし、手が延ばされたことが主の十字架の死につながっている。

人の罪も縮こまった手のようなものだ。人は罪によって歪められている。内面が傷つき、萎えている。それが赦され、癒されて回復し伸ばされる。われらは赦されて、礼拝者となった。その後には主の十字架の死がある。

主は淡々と皆の病気を癒された。そして沈黙の中で、十字架の死を負われた。「彼は争わず、叫ばず、その声を聞くものは大通りにいない」ことが預言者の実現であった。「傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない」その静けさこそ全ての人々に到達する救いの実現の仕方である。